

Q

片栗粉を触ってじんま疹が出てしまったアレルギーの園児がいました。
皮膚から入るアレルギーのリスクはどの程度なのか？ピーナッツなどもアナフィラキシーを起こす危険性は(皮膚接触で)あるのか気になります。

A

食物に対する1型アレルギーの場合、検査としてプリックテスト(検査用エキスを付けた針もしくは被検物を刺した針で、皮膚を刺して、その場所に膨疹[蕁麻疹]を作るかどうか見る)というものを行います。つまり、経皮的にも反応が出ます。アナフィラキシーにまで達するかですが、食物アレルギー患者にこのプリックテストを行ったとき、局所の膨疹以上の全身の症状が出たのが、10万人のうち500人くらいとされています。アナフィラキシーショックで死亡に至ったのが1例です。テストではなく日常生活で経皮にアレルゲンが入った時のリスクも同じと考えられますが、皮膚には角層～表皮のバリアがありますので、針でわざわざアレルゲンを侵入させるテストと異なり、湿疹や傷などによる侵入経路がなければ、このような反応は起こしません。ご質問の答えは、リスクはあるが、低い、ということになりますし、アトピー性皮膚炎などでもともと肌荒れしていると、リスクが高まるということになります。

Q

娘の腕や足などにアトピー性皮膚炎の症状があるのですが、どのような対応が効果的かわからずにいます。

A

汗や石鹼などをきちんと洗い流したうえで、保湿し、炎症の強さや掻き壊しの程度によって、抗炎症外用剤のステロイド外用剤（強さは5段階あります）やプロトピック軟膏を使います。アトピー性皮膚炎に画一的な治療があるわけではなく、症状に応じた外用剤が選択されますので、皮膚科の診察を定期的に受けて、相談することが肝要です。

Q

赤ちゃんの時に発症した食物アレルギーはいつ頃治るのか。

A

自然に治るものと、成人になっても同じように続くものがあり、また、成人になって発症するものもあります。「治った」かどうかは、「食物アレルギーなのかどうか」の診断時と同様、負荷試験を行う必要があります（血液検査だけでは分かりません）。